

摘 録

会 議 名 令和元年度第2回刈谷市歴史博物館協議会

日 時 令和元年10月30日(水) 午後2時00分～4時00分

場 所 歴史博物館 1階講座室

出 席 者 協議会委員：西宮秀紀(会長)、吉田俊英、堀江登志実、山田孝、清水英弥、石橋保尚、市川明日香、吉田永子(敬称略)

事務局：加藤隆司(歴史博物館長)、中尾理恵(歴史博物館長代理)、長澤慎二(学芸員)、五十嵐正也(学芸員)、井筒康人(学芸員)、山下智也(学芸員)、水野節子(学芸員)

内 容

1 議題

(1) 開館後の状況について

令和元年6月～9月の状況について説明した。

(A委員) 中1と小3の博物館見学を行っているということだが、小学校高学年に来てもらえるような呼びかけを行ったほうがよい。そのためには、先生方に見てもらわなければならない、カリキュラムに組み込むようにしてもらえばよい。

(B委員) 最近、近隣の小学校の生徒が多数来館したとのことだが、現在開催されている企画展の絡みで来館したとのことである。次期企画展においても、近隣の小学校に来館するような働きかけはしたのか。

(C委員) 8月の博学連携情報交換会で今回の企画展を知り、カリキュラムに盛り込んだようである。ただし、学校で博物館に来館するとなると、その分の授業数が減ることになり、ただでさえ学習指導要領の関係で授業数が増やされている現状では、歴博の展示を見るように働きかけると、かえって現場の反発を招いてしまう。

(D委員) 歴博で展覧会があるのでそれに合わせた授業を行うことができるが、展覧会は期間ごとに代わるので、来年以降につながらない。一度きりしか教材を使わないことになる。だから、常設展を絡めたものや学芸員と連携した授業を企画し、汎用性がある授業をすべきだと思っている。

(B委員) 近隣の小学校の中には去年から学芸員が出前講座をやっていると聞く。そのような取組みを増やしていけばよい。

(A委員) アンケートを見ていると高齢者が増えているということだが、若い人向けにSNSやホームページを活用した呼びかけをした方がよい。また、イベント関係も年齢層に分けたものを用意した方がよい。

(A委員) この館は最寄駅からの交通が課題である。バスがほとんど運行していないため、大半が駅から徒歩で来ると思う。駅からのルートや道中の楽しみがわかるようなパンフレットを作成した方がよい。

(E委員) 来館者数が5万人を突破するとは想定外であった。こんなに来るとは思わなかった。10万人達成の時には、ぜひ何かイベントをやってほしい。

(F委員) アンケートの8個目の項目である評価方法が常設なのか企画展なのかわからない。企画展に関してのきめの細かい、展示内容に関するアンケートをすべきである。

(2) 来年度の企画展について

来年度の企画展案を事務局より示した。

委員からは、観覧料や図録、企画展の頻度や時期などについて、意見があった。

(3) 今後の予定について

今年度行う企画展やその他の事業について説明した。

2 その他

(G委員) よそから来ると刈谷には面白い地名が多い(高津波や半城土など)。地名の由来に関する展示などをやると、子どもも興味を持ってくれるのではないか。